令和７年度　学校評価アンケート集計及び考察　　令和7年11・12月実施　　肯定的割合…回答３以上

目標	視点	アンケート項目（上…児童　中…保護者　下…教職員）	児童 4	児童 3	児童 2	児童 1	児童 平均	児童 6月期比較	児童 肯定的割合（%）	児童 6月期比較	保護者 4	保護者 3	保護者 2	保護者 1	保護者 0	保護者 平均	保護者 6月期比較	保護者 肯定的割合（%）	保護者 6月期比較	教職員 4	教職員 3	教職員 2	教職員 1	教職員 0	教職員 平均	教職員 6月期比較	教職員 肯定的割合（%）	教職員 6月期比較	視点平均	6月期比較	目標平均	6月期比較	自己評価結果からの考察（■）・対策（◇）	総括
安心・安全で楽しく通える学校（ことば・なかま）	平和・人権・命	私は、自分もみんなも楽しくなれるよう、いじわるや悪口をせず生活している	61	61	13	2	3.32	-0.13	89.05	-3.47																		3.28	-0.1	3.28	-0.1	■児童・保護者ともに「安心して学校生活を送れている」という評価は概ね高く、人権や命を大切にする意識は定着しつつある。 ■言葉遣いや友達関係のトラブルは学年・個人差があり、未然防止の指導に継続的な取組が必要である。 ■教職員の意識は高いが、日常の場面での共通理解や指導の一貫性に課題が見られる。 ◇道徳・人権学習を中心に、日常生活と結び付けた「ことば・なかま」を意識した指導を全学級で継続する。 ◇トラブルの早期発見・早期対応のため、児童理解の時間確保と情報共有の仕組みを強化する。 ◇学校全体で共通した指導方針を確認し、具体的な声かけや対応例を共有する。	○６月期と比較して、全体的にマイナスポイントなっている。しかしながら、それでも平均値が「３」を上回る項目や８０%を超える肯定的割合が多いのは、６月期が統合後二ケ月あまりの時期の調査で、まだ十分に子どもたちや学校の様子が見通せておらず、『期待値』としての側面があったものではないかと思われる。 それを鑑みると、期待に十分応えられていない項目を見取り、反省材料として学校運営に反映させる必要がある。 特に「生活指導」「自己肯定感」については、本校の合言葉「ことば」「なかま」「がんばり」「いきいき」、通称「こ・な・が・い」の徹底を通して、言葉の使い方と仲間への接し方の改善、粘り強く挑戦させることやめあてをもたせた学びによる自己肯定感の醸成などを具体的な手立てを講じて取り組む必要がある。 ○６月期でも課題となった「読書」については図書室の活発な利用促進や図書委員会による読み語り活動等を通じて啓発に努めてきたところである。昼休みによく図書室に行く子もいるものの子どもによる温度差が依然として生じている。職員は意識的に取組を厚くしていたが、継続的な取組を今後も行っていく。 ○一方、「学力向上」では学校での授業をわかりやすく指導していると評価されていることと家庭学習の進め方を教えてほしいという思いが見える結果と推察できる。 ここにあげたことについては、学級懇談会等で話題にし、学校と保護者の情報交換や共有を深めていきたい。 ○全体的な評価に係る数値をみると、目安となる３以上に到達しているところではあるが、個別の対応を要する必要性を十分肝に銘じて次年度への準備を進めなければならない。
		子どもが安心して登校できるよう、人権・平和、命に配慮した学校・学級づくりに努めている									19	37	7	1	5	3.16	-0.23	87.50	-7.42														
		学校の教育活動全体を通して、命や人権について指導するとともに、道徳的価値を高めるように努めている																		6	9	0	0	0	3.40	-0.10	100.00	0.00						
	生活指導	私は、元気よくあいさつや返事をしたり、学校のきまりを守ったりして生活している	65	56	15	1	3.35	0.02	88.32	1.25																		3.25	0				
		子どもが挨拶や言葉遣い等、学校や社会生活でのきまりを守れるような指導や支援に努めている									14	36	12	2	5	2.97	-0.21	78.13	-10.21														
		機を逃さない生活指導を通じ、児童の規範意識の向上に努めている																		7	2	0	0	0	3.78	0.03	100.00	0.00						
	自己肯定感	良いことをしたとき、先生はほめてくれる	63	54	14	6	3.27	-0.03	85.40	0.37																		3.21	-0.1				
		子どもが自己肯定感を高められるような支援や配慮に努めている									15	32	12	0	10	3.05	-0.19	79.66	-5.53														
		子どもの特性を把握し、自己肯定感の向上に努めている																		4	5	0	0	0	3.44	0.02	100.00	0.00						
	子どもの相談	悩みや困ったことがあると、先生が相談に乗ってくれる	85	36	14	2	3.49	-0.07	88.32	-3.52																		3.39	-0.1				
		子どもの悩みや困りに応じた支援や配慮に努めている									18	33	9	1	8	3.11	-0.02	83.61	-1.30														
		子どもの相談や困りに向き合い、適切な支援や配慮に努めている																		6	3	0	0	0	3.67	-0.08	100.00	0.00						
家庭や地域と連携し、活力ある学校（がんばり）	体力向上	私は、運動や外遊びをよくしている	78	36	20	3	3.38	-0.16	83.21	-2.50																		3.29	-0.1	3.29	-0.1	■学校行事や地域連携活動については、保護者・地域から一定の理解と協力が得られている。 ■「体力向上」「生活習慣」については、学校と家庭が連携・協力して今後も取り組んでいく必要がある。 ◇行事や活動の精選を進め、児童の「がんばり」が実感できる活動に重点化する。 ◇家庭・地域との役割分担を明確にし、無理のない連携体制を構築する。	
		子どもの体力が向上するように、運動の機会を設けるように努めている									19	35	9	1	5	3.13	-0.12	84.38	-2.67														
		運動の機会、運動量の確保と個に応じた基礎体力の向上に努めている																		1	5	1	0	2	3.00	-0.20	85.71	-14.29						
	生活習慣	私は、早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活をしている	66	52	16	3	3.32	0.11	86.13	4.75																		3.25	0.05				
		家庭と連携し生活リズムを身に付けさせ、子どもの基本的な生活習慣の形成に努めている									17	38	10	1	3	3.08	-0.23	83.33	-13.22														
		家庭と連携し生活リズムを身に付けさせ、子どもの基本的な生活習慣の形成に努めている																		3	4	0	0	2	3.43	0.23	100.00	0.00						
	健康な生活	私は、自分の病気やけがをしないように気を付けたり、食べ物の好き嫌いをしたりせず、健康に気をつけた生活をしている	57	54	17	9	3.16	-0.13	81.02	-2.54																		3.13	-0.1				
		家庭と連携し、子どもの食生活を整えたり、けがや病気を予防したりして健康な生活を送れるように努めている									16	38	9	2	4	3.05	-0.14	83.08	-7.49														
		家庭と連携し、子どもの食生活を整えたり、けがや病気を予防したりして健康な生活を送れるように努めている																		2	5	0	0	2	3.29	0.29	100.00	0.00						
	達成感・成就感	私は、学習や自分の役割に最後までねばりづよく取り組んでいる	68	50	18	1	3.35	-0.10	86.13	-7.71																		3.25	-0.1				
		目標を持たせて物事に取り組ませ、ねばり強くやり遂げる教育に努めている									14	34	10	2	9	3.00	-0.20	80.00	-5.19														
		適度な負荷のかかった取組に粘り強く取り組ませ、乗り越えた成就感を味わわせるよう努めている																		4	5	0	0	0	3.44	-0.14	100.00	0.00						
確かな学力を定着させる学校（いきいき）	学力向上	私 は、先生 がわかりやすく勉強を教えてくれていると思っている	98	32	5	2	3.65	0.05	94.89	-0.63																		3.53	0.03	3.26	0.0	■授業改善や学習規律の定着により、学ぶ意欲は一定程度高まっている。しかし、学力の定着には個人差があり、基礎・基本の定着に課題が残る。 ■家庭学習の取組状況に差があり、家庭との連携が十分とは言えない。 ■本を読む習慣には個人差が大きく、読書量や関心の広がりに差が見られる。家庭での読書習慣が定着していない児童も一定数いる。 ◇児童一人一人の実態に応じた指導を計画的に行うとともに、授業の中で「分かる・できる」を実感できる工夫を継続し、学習意欲の向上を図る。 ◇家庭学習の目的や方法を明確にし、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。 ◇家庭と連携し、親子読書や家庭読書の取組を推進するとともに、学校図書館の計画的な活用と環境整備を進める。	
		子どもが楽しく学び、必要な学力が身に付くよう授業を工夫している									24	33	5	1	6	3.27	0.05	90.48	2.15														
		子どもが楽しく学び、必要な学力が身に付くように研修や授業改善に努めている																		4	5	0	0	0	3.44	-0.14	100.00	0.00						
	家庭学習	私は、宿題や自主学習を家でもきちんと取り組んでいる	95	30	10	2	3.59	0.15	91.24	3.48																		3.41	0.01				
		子どもが家庭学習に自主的に取り組むことができるように工夫している									18	35	11	2	3	3.05	-0.15	80.30	-6.37														
		家庭と連携し、家庭学習（宿題）や自主学習の習慣化が図れるよう努めている																		3	3	1	0	2	3.29	-0.16	85.71	-5.20						
	読書	私は、学校や家で読書をよくしている	37	43	38	19	2.72	-0.15	58.39	-5.56																		2.83	-0.1				
		読書や読み聞かせなど、読書活動の推進に努めている									22	28	14	3	2	3.03	-0.09	74.63	-7.04														
		本に親しむ機会を設け、読書の習慣を図るよう努めている																		2	4	1	0	2	3.14	0.14	85.71	3.89						
その他	保護者の相談	保護者の相談に真摯に応じている									22	37	3	4	3	3.17	-0.08	89.39	0.30										3.25	-0.2			■保護者が学校に相談しやすいと感じている割合は一定程度高い。一方で、相談内容や対応への理解に差が見られる。 ■学校の取組や児童の様子について情報発信を行っているが、内容や方法によっては十分に伝わっていない場面がある。 ◇相談内容に応じて組織的に対応するとともに、面談方法や相談時間の工夫により、保護者が相談しやすい体制を整える。 ◇各種便りやホームページ等を活用し、目的や成果が分かりやすく伝わる情報発信を工夫・充実させる。	学校関係者評価より ・自己評価を概ね適当であると評価する。 ・生徒指導や学力向上、家庭学習、学習規律等について、義務教育学校開校を見据えて、小中連携して取り組む必要があるのではないか。
		保護者の相談に真摯に応じるよう努めている																		7	0	0	0	2	4.00	0.09	100.00	0.00						
	情報発信	学校・学年・学級だより等で子どもの様子を伝え、家庭・地域と連携した教育に努めている									27	31	7	2	2	3.24	-0.20	86.57	-10.15										3.23	-0.2				
		学年・学級の様子を発信し、家庭や地域との連携に努めている																		1	6	0	0	2	3.14	-0.26	100.00	10.00						